

「事業団研修に参加して」

都留市 産業・建設部

水資源活用課 渡邊 貴幸

私は、4月に新採用で下水道担当に配属されたばかりで、下水道の仕事に慣れるため、また、上司の勧めもあり1月31日～2月4日に開催されました「経営コース 接続・水洗化促進と情報公開」（5日間のコース）に参加させていただきました。私がこの研修を選んだ理由は、下水道は整備しても接続してもらわなければ意味がないため、接続してもらうために他の市町村ではどのようなことをしているか学びたかったからです。

主な講義の形態として、それぞれ異なった下水道事業を行っている自治体（供用開始の早い市や人口1万人の町など）の下水道担当を講師として招き、どのような水洗化促進、広報活動を行っているか資料をもとに講義を行うものであります。

下水道に接続しない要因はどの自治体も大きく分けて2つであり、1つは、経済的困難。2つ目は、浄化槽が設置してあり不便していないことが考えられます。その対策として、それぞれの自治体によって金額や対象は違いますが、補助金を交付し、水洗化促進をはかっています。そのために、供用開始1年、3年で下水接続のお願い文を送っている自治体もありました。

広報活動においては、とにかく「下水道」という文字に触れる機会を増やすことを重点的に考え、タオルやエコバックなどに普及促進に関する文字を入れ配布したり、小学校などに出前講座を行っている自治体も多いようでした。

研修に参加し、これをやれば接続率が上がるといった答えはないということがあらためてわかりました。水洗化を強制的に行わない限り接続率が大幅に上がることはありませんが、その中で各自治体が工夫して水洗化促進をはかっています。他の自治体のたくさんの事例を聞くことができ、この研修で学んだことを今後の業務に活用していきたいと思えます。

最後になりましたが、お世話になりました加藤先生をはじめ、講師の方々、日本下水道事業団研修センターのスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

機会がありましたら、また他の研修に参加させていただきたいと思っています。